

投光器 学習版

国労東海貨物協議会
2012年8月10日 No.15
発行責任者 鈴木 和巳

今回は「労働者の視点」ということを学習してみたいと思います！
あなたの視点はどちらを見えていますか？

この学習版は労働運動を学習しようということで始めた企画ですが、あちらこちら脱線しながら色々書いてきました。あらためて今回は労働運動の原点となる「労働者の視点」について学習しましょう。

労働者の誰もが自分の働く会社は当然黒字の方が良いと思っています。しかしながら貨物会社のように、労働者への犠牲の上に黒字を計上している現状があることも事実です。どうしたら労働者が報われる状況になるのでしょうか？

物の見方・考え方には最低でも2通りあると思いますが、自分たちに当てはめれば会社の考え方と労働者の考え方です。会社の考え方は労働者の賃金を如何に抑えて収益を上げること、逆に労働者の考え方では如何に労働力を高く売るかということになります。

ところが、会社の考え方をするとしても社員は全て労働者であり、自らの給料によって生活をしています。この矛盾の解決には経営側労働者の賃金体系（各種手当含む）を高くすることになり、簡単に言えば、お金のために会社人間になるということです。

自分の将来を考えた時、経営側に立ちたいと思うなら会社の視点を身に付けることが必要ですし、自分は労働者として頑張るといふなら労働者の視点が重要だと思えます。

労働者の視点で言えば、自分の働く環境が安全かどうか、自分の給料で生活が出来るかどうか等、自分の置かれている状況を判断し会社に対して要求をぶつける必要があります。そこで重要となってくるのが組合の役目であり、労働者の意見を取り上げ闘うことが労働組合の役目です！

あなたの所属する組合は意見を取り上げ闘っていますか？

青年労働者はもっとオジさん達を活用しよう！

職場に配属されてから、右も左も解からず一生懸命に仕事を覚えようとしている青年に伝えたいと思いますが、職場で親子ほど年の離れた関係はどこの職場にもあると思います。青年からすれば話しにくい感情があるかと思いますが、私たちオジさんとすれば若い世代との話って非常に重要なんですよ！

色々な考え方や仕事に対する取り組み方など、新人が毎年採用されている駅、貨車や機関車の検修職場、新たに乗務員を養成している乗務員区等では毎年のように入る青年を見て、どう教えていったら良いのか等、オジさんも苦労している訳です。

オジさん達は経験に基づいた知識を豊富に持っており、会社も技術継承に力を入れている訳ですから、若い世代の意見は非常に重要ですので遠慮なく色々な質問をして積極的に話をしてみましょう。現在の貨物会社における教育はマニュアル頼みのような部分が多く見受けられますが、マニュアルに載っていないような経験もしています。様々な話を聞きながら、現在の自分の仕事へ活かすことも重要だと思えますよ！

